



有限会社 新宿電気商会
代表取締役

浅井 直樹

「私たちが手掛けているのは、ライフラインとして欠かせない『電気の道』をつくる仕事」——そう語る浅井社長。現代社会において、電気があるのが当たり前で、災害などでその道が閉ざされた途端、生活することが困難になる。「それだけ大切なものを支える仕事だからこそ、やり甲斐がある」と語る社長は、この仕事に誇りを持ち、培ってきた知識と技術を若い世代へと伝えていく。

**「人々の生活を支える
この仕事に誇りを持っています」**

仕事における安全管理を徹底し 電気工事で人々の暮らしを支え続ける

1967年の創業から50年以上の長きにわたり電気の配線工事、引き込み工事を手掛けてきた『新宿電気商会』。現在同社を率いる三代目・浅井社長は、人々のライフラインを支えていることに誇りを持ち、知識と技術に磨きをかけて仕事に臨んでいる。本日はタレントの布川敏和氏が同社を訪問。社長にインタビューを行い、その横顔に触れた。



代表取締役

浅井 直樹

SPECIAL INTERVIEW

——まずは『新宿電気商会』さんのことからお聞かせ願えますか。

父が1967年に当社を創業し、今年で53年になります。仕事の内容としては、配電線工事がメインです。具体的には屋外の作業で、電柱を立てて、そこに高圧線を張り、変圧器で低圧に落として各家庭に電気を送る、その全ての作業を担当しています。

——長きにわたり地域住民の生活を支えていらっしゃるんですね。浅井社長は、どのような少年時代を過ごしてこられたのでしょうか。

小さいころから外で遊ぶのが好きで、生き物が好きな子どもでした。ですから、家業のようなスーツより作業着、デスクワークより身体を動かす仕事のほうが合っていると思っていました。

——では、学業修了後に家業に入られたのですか。

いえ。最初は当社の親会社である電気工事会社の『トーエネック』に入り、修業させていただきました。私は男4人兄弟の次男で、家業を継がなければいけないという思いはなく、『トーエネック』でずっと働くつもりだったんです。ところが、就職して3年目に父が他界し、

なく、人脈づくりも心がけてきた。その『トーエネック』での経験は、今も活かしている。当時、社長と働いていた仲間たちは現在も同社で活躍しており、仕事に関わることもあるそうで、以前、共に汗を流して働いたことがある間柄だからこそ、仕事をスムーズに進めることができているという。「前職でできた人のつながりは大きな財産」と語る社長は、これから一人ひとりとの縁を大切に前進していく。



COMPANY DATA

有限会社 新宿電気商会

愛知県瀬戸市高根町2丁目87番地
URL : <https://shinjukudenkisyokai.co.jp>

当社を受け継ぐなら経験を積んでいる私にということで白羽の矢が立ったのです。私自身、親の期待に応えたいという気持ちがありましたから、8年ほどの修業を経て家業に入ることになりました。当時は母が代表を務めてくれていました。そして私は、入社から10年間でさらに現場で経験を積み重ね、今から10年前に母から代表職を引き継ぎました。

——なるほど。だから三代目なのですね。社長が思う、このお仕事のやり甲斐はどのような点にあるのでしょうか。

私共は、皆さんの生活に欠かせない電気を供給するための工事を手掛けていますが、電気というのは現代社会において当たり前にあるものになっていて、それがなくなれば冷蔵庫は止まり、お風呂に入ることさえできず、生活ができなくなってしまいます。ですから、もし台風などで停電した場合は、県外でも応援に駆け付けています。二年前も台風で被害を受けた地域に向かいましたが、その時は、同業の仲間たちが結集して共に復旧作業にあたりました。私はこれまで何度も災害現場での作業を経験してきましたが、生活のために1分1秒でも早く復旧しなければならぬので、休む時間を削って作業にあたることもありました。若いころは、1時間の仮眠で2日間寝ずに働くような過酷なことも経験しましたが、地域の方々の喜ぶ顔を見ると嬉しいですし、「ありがとう」とおっしゃっていただけるとやり甲斐を感じます。皆さ

んのお役に立て、暮らしを支えられる、この仕事に誇りを持っています。

——それほどのご苦労をされても、困っている人々のためなら頑張れると。格好良いですね。お仕事をされる上で大切にされていることは何でしょう。

危険な作業が多いですから、安全管理を第一に考えています。基本的には電気を止めて作業を行うのですが、場合によっては電気が流れている状態での作業もあるので、感電の危険がないとは言いきれません。また、高所での作業ですから、落下の危険もあるんです。事故やケガを防ぐために様々なルールを設けていますので、そのルールを遵守し、決して逸脱しないように厳しく指導しています。——それも従業員さんたちを守るためですもんね。

ええ。現在、従業員は15～16名ですが、その家族も入れるとかなりの人数になります。たとえ売上が落ちてもいくらかでも挽回はできます。ただ、ケガや事故になると本人や家族の生活、会社の存続にも大きな影響を及ぼしますからね。

——社長の熱いお人柄が対談を通じて伝わってきました。お話も尽きませんが、最後にこれからの展望をお聞かせ願えますか。

ありがたいことに事業が好調ですから、人員を増やしていきたいと思っています。ただ、この仕事は技術・経験を身につけるのに時間がかかります。ですから、5年後までの増員計画を立てて

いるのですが、この業界のみならず建設関係全体が人手不足の状態です。まず若い人材が入ってこないんです。けれども先ほどお話をさせていただいたように、この仕事は人の生活を支えるやり甲斐の大きい仕事。社会に貢献できる誇れる仕事なので、若い人にも興味を持ってほしいと思っています。やってみたいという人がいれば、初心者でも大歓迎。ゼロからしっかり指導しますし、安心して飛び込んできてほしいですね。

(2020年11月取材)



布川 敏和

(タレント)

「現代は技術発展が進み、生活する上でとても便利になりましたが、その分電気がなくなると何もできなくなっています。今回お話をさせていただいて、『新宿電気商会』さんのような技術者さんがいらっしゃるからこそ我々は当たり前のように電気を使うことができ、毎日を便利に生活できているのだと実感しました。これからも地域の方々の生活を守ってほしいです」

前職の経験・人脈が大きな力に

▼『新宿電気商会』は、総合設備企業『トーエネック』の協力会社でそこから受注し、事業を展開している。『トーエネック』は電気設備工事をはじめ、電力関連工事、電気通信工事などを広く手掛ける企業で、愛知のみならず岐阜、三重、静岡、長野と幅広くカバーしている点にも注目だ。▼その『トーエネック』で8年間にわたって現場経験を蓄積してきた浅井社長。修業時代は、技術を習得するだけで